

## 令和元年度第4回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 令和元年8月2日（金） 午前10時～11時50分
2. 開催会場 印西市文化ホール 大会議室
3. 出席者 粉川一郎委員長、椎名武博委員、安倉史典委員、林典子委員、矢野眞理委員、藤澤進委員、樋口祥明委員、坂本富彦委員（以上8名）
4. 事務局 市民活動推進課 佐瀬課長、金井
5. 傍聴者 なし（非公開）
6. 会議内容
  - 1 開会
  - 2 議題
    - (1) 令和元年度企画提案型協働事業の公開審査会（アイデア審査）について
    - (2) 令和元年度企画提案型協働事業の提案事業について
    - (3) 令和元年度企画提案型協働事業の公開審査会（最終審査）について
    - (4) その他
  - 3 閉会

### 7. 会議要旨

#### 2 議題

- (1) 令和元年度企画提案型協働事業の公開審査会（アイデア審査）について

〔参考資料〕資料2～4

#### 《事務局説明》

資料2～4に基づき、令和元年度企画提案型協働事業の諮問内容と、8月16日に開催される公開審査会（アイデア審査）のプログラム及び評価の方法について説明した。今年度は自由提案型5件、指定テーマ型1件の計6件の提案の提出があった。

- ・アイデア審査の流れ、審査方法について確認をいただき、了承を得た。

- (2) 令和元年度企画提案型協働事業の提案事業について

〔参考資料〕資料5～8

#### 《事務局説明》

資料5～8に基づき、提案団体の概要、提出された協働の機会提案書について確認した。自由提案型の継続提案4件については、昨年度に提出された協働の機会提案書（資料7）、担当課から提出された事前協議チェックシート（資料8）もあわせて確認した。

継続提案4件については、それぞれ内容を確認しアイデア審査を省略して、最終審査とすること、また、継続提案は10月の最終審査まで付帯意見を付ける機会を設けていないので、現状で意見を付ける必要があるのかについて確認した。

自由提案型の新規提案1件と指定テーマ型1件について、アイデア審査を実施し審査時に行う質

問事項を確認した。

#### 《企画提案の検討》

##### 【提案1】訪問傾聴ワーカー（見守り隊）限定地域派遣事業（提案者：こむnet ちば）

- ・資料8（8）で、一部妥当性に欠ける部分はあるが概ね採用できるとあるが、これはどのような課題なのか。  
→第三者委員会（個人情報取り扱い）の設置の必要性について担当課と団体の相違がある。また、訪問先について確認を要することによるもの。（事務局）
- ・任意団体が、第三者委員会を立ち上げることに、社会的信頼性があるかないかという議論もある。前回の審査の中で活動が終わったあと、どうしていくのかという議論があった。定量的な広がりはどうなっていくのか見えないと、2年目の活動として評価するのが難しい。地域を限定して、このようなことを行って、スキームができあがったなどのことをして行かないと、言っていることと実態が違うような気がする。  
→当該団体で派遣する地域については、アンケートを行っており、それに基づき実施する予定。（事務局）
- ・今年度から始まった事業なので定量的な効果はまだ出ていないと思うが、継続事業であれば、具体的な計画・内容を提示して欲しい。  
→今年度は養成講座を実施している段階であり、派遣事業については、来年度に実施するもの。（事務局）
- ・今年度、3か月間の活動状況が分かると良い。
- ・昨年の審査の中で課題は提示されている。1年経って、どのような検討をしてきたのか。事業を始めて3か月では検証は難しいが、課題について、どのような解決方法を考えているのか説明していく必要があるのでは。
- ・今年度の受講生が、来年度からどのように活動していくのか、具体的に提示していきながら、教育も継続していかないといけない。この団体だけで活用するのではなく、市と協働事業なので、市のスタンスや意見を盛り込んだ形で計画を立てるべきである。
- ・第三者委員会の必要性について市と団体の調整が必須。昨年度の疑問点、課題に対する説明が不十分である、来年の4月から受講生がどのように動き始めるのか、それに向けた具体的なプランについて早急に担当課と団体において協議が必要である。（粉川委員長）

##### 【提案2】武西の里山 調査と保全事業（提案者：NPO法人谷田武西の原っぱと森の会）

※提案2が議題の際、矢野委員は関係者のため室外へ退席

- ・武西の地域がどのような状況なのか？説明があると良い。  
→資料8（9）のとおり、市として課題が生じている。（事務局）
- ・この事業（活動）について、これまでの経緯が分かると良いのでは。
- ・市が、この場所やデータの活用、ほかへの展開を考えられないか等、こう生かしていきたいというのがあると、より生きていくと思う。
- ・これまでの経緯を踏まえ、ここで何を目的に何をしていくのかを示すことで、今年度、市としての位置づけを考えていくうえで、重要なポイントとなる。団体だけではなく担当課と一緒に意見交換しながら具体的なプランニングに進んでいっていただきたい（粉川委員長）

##### 【提案3】イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業（提案者：NPO法人里地里山保全

ねっと)

- ・県の事業とはどのようなものなのか。  
→具体的な内容は把握していないが、資料8(7)の事業が新設されたとのこと、事業との棲み分けが必要ではないかとのこと(事務局)
- ・県の事業はいつから。本事業が県の事業に該当するのか。最終審査まで調整が可能なのか。  
→県の事業に該当するところもある。実施内容について、担当課と団体で協議を進めているところ  
です(事務局)
- ・資料8(10)「かつ協働が困難な事業についての提案があるため」とあるがどのような提案か。  
→整備後の活用方法に課題があるのではないかと(事務局)
- ・印西市の行っている協働事業で行っているイノシシ対策について、県で類似する事業が新設される  
ことになったということは、市が一步先に進んでいたということではないか。事業の棲み分けにつ  
いては、団体の意向を聞きながら、行政主導で検討・整理をお願いしたい(粉川委員)

**【提案4】 自主防災組織の活性化事業(提案者:印西防災研究会)**

- ・資料8(2)、市の取り組みや方向性に合致していない部分とは。  
→自主防災組織地区連絡会・全体連合会の推進が合致していないとのこと。  
組織設置率の向上は行っていきたい。市では、土砂災害について注力している、崖がある地域の  
設置率が低い状況であるため、それに対し自主防災会がどのように動けるかを検討していきたい  
とのこと(事務局)
- ・市内には町内会等、様々な連合が組織されており、地域によって必要性は異なるので連合会のような  
全体を網羅するような組織の必要性は疑問。
- ・連合会の是非ではなく、現行の連合会は十分に機能していないのではないかと。組織を生かせるよう  
な連合会であれば大いに取り組んでいくべき。
- ・自主防災組織の位置付けが問題では。  
→自主防災組織が個々に情報交換や協力して活動することを、拒んでいることではなく、市として  
あらかじめ単元を作らないということ認識している。(事務局)
- ・自主防災会が立ち上がって、防災活動ができていくことが一番大切なこと。当初の提案であったと  
おり、そこに注力してもらいたい。連合会の役割は、市がいろいろな意見や情報を流す役割を果た  
していけばよいのでは、連合会に注力しないで、本来やるべきことに注力したほうが良いのでは。
- ・団体と防災課で、連合会のイメージを共有されてないのでは。形骸化された連合会の必要はないが、  
自主防災組織同士の助け合いは必要であり、来年度に何に注力をすべきか、担当課と団体で話し合い  
を十分に行っていただきたい。(粉川委員長)

**【新規提案1】 家庭教育力の向上支援事業「子育てを学ぼう!ハートフルキャラバン」**

(提案者:NPO法人ハートフルコミュニケーション千葉エリア)

- ・担当課からの意見はあるのか。  
→新規提案のため、担当課との事前調整は行っていないが、支援センター、市民活動推進課、子育て  
支援課、提案者において、市の子育て状況について意見交換を行っている。(事務局)
- ・団体会員数が200人となっているが。千葉として会員数は。  
→NPO法人すべの人数です。千葉の人数について把握していない。(事務局)
- ・印西市でどの程度の会員がいるのか。

→印西市内での会員数は把握していないが、事業の内容によって人員の確保ができるとのこと。

・法人として登録しているのか。登録要件に合致しているのか、市としての整理が必要では。

→形式的な要件は満たしていると認識している。(事務局)

・以前、NPOは理事が代表権を持っていた、改正により代表権について変更がある。契約するにあたり代表権があるかないかを確認する必要ではないか。

・応募要件は満たしている、契約はきちんと法人と行うことで判断したのではないか。

・実態がどのくらいあるのか、提案者1人が活動するののかというのが主旨としてどうなのか。市民活動推進課で整理・確認をしてほしい。(粉川委員長)

・市の子育て支援拠点などで継続的な活動を予定しているようであるが、提案内容は子育て支援センターの活動目的とほぼ同じように見受けられる。子育て支援センターとの役割分担はどのように考えればよいか？

・子育てのための講座なら理解できるが、コーチを育てることなど不明な点が多々ある。

・どのようなスキルを持っている団体なのかわからない。提案内容は講座や講演会だけだが、そのほか、どのようなスキルがあるのかが分かれば、将来、講座だけでなく子育ての関わり方がイメージできるので、団体がどのような団体なのかが分かる資料を提示して欲しい。

・市内にどの程度の講座対象者がいて、この講座を行うことによりどの程度の教育効果がでるのかを明確化してほしい。市として、この活動がどのくらいの意味があるのかを、市としてのスタンスを明確化してほしい。

・提案内容で開催回数についての記載があるが、規模について説明があると良い。

・事業中身のコーチングとは、どのように取り入れていくのか。

【指定テーマ】 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業(提案者：NPO法人エコネットちば)

・団体としての後継者問題。担当課への、周辺整備はできているが、池の中の整備についての課題について、その後はどうなったのか。

・市として、今後どうしていくのか。いつまで協働事業で行っていくのか。市の方向性を決める時期に来ているのでは。

《委員長 確認》

・企画提案6件について、すべて了承とする。

### (3) 令和元年度企画提案型協働事業の公開審査会(最終審査)について

〔参考資料〕資料9、10

《事務局説明》

資料9、10に基づき、10月4日に開催予定の公開審査会(最終審査)の進行及び評価の方法について説明した。

・評価項目の協働の効果について、プレゼンテーションの中で明確な説明がないので評価しにくいので、市との協議内容について具多的な説明をしてほしい。

### (4) その他

特になし。

以上

令和元年8月2日に行われた、印西市市民活動推進委員会の会議録は、事実と相違ないので、これを承認する。

令和2年1月16日

会議録署名委員 粉川 一郎